

■眼科研修プログラム

1) 一般目標

臨床医として、日常遭遇する眼科疾患を、初期治療でよいもの、緊急性あるいは専門的な診断、治療が必要であるものを判断できる知識・技量を習得する。

2) 行動目標

1. 眼科に必要な解剖および視機能と基本的疾患を理解する。
2. 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定などの基本的眼科診察手技を習得する。
3. 視力障害、視野障害などの概念を理解できて、緊急度・重症度を判断できる。さらに、必要な眼科検査を選択できる。
4. 眼科救急疾患（急性緑内障、網膜動脈閉塞症、網膜剥離、外傷、異物など）の診断と初期治療を理解する。
5. 眼と他科疾患（全身疾患、糖尿病、高血圧など）の関連を理解する。
6. 基本的な治療手技（レーザー治療、白内障手術、網膜剥離手術、外眼部手術など）の方法、手順を理解する。
7. 担当医として入院患者を受け持ち、術前評価、治療方針の決定、インフォームドコンセントの手順、術前術後管理を理解する。
8. 眼科で用いる点眼、内服、注射薬の薬理作用、投与方法の基礎を理解、習得する。

3) 研修方法

1. 指導医、視能訓練士による眼科検査法のレクチャーを受ける（細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定、矯正視力検査、視野検査）
2. 眼科問診、必要な検査指示、検査結果の理解、診察（細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定など）、診断、治療方針、処方（点眼液の種類など）を実習する。
3. 視力検査室において、視能訓練士の指導のもとに、眼科検査（視力測定、視野検査、眼球運動検査、斜視・弱視検査など）の意義を学習して、実践する。
4. 眼科特殊検査（眼底写真、蛍光眼底造影検査、眼底三次元画像解析、前眼部スリット写真、角膜内皮測定、超音波検査など）を指導医のもとに実習する。
5. 入院患者の担当医となり、診察、治療方針、術前術後管理などを習得する。
6. 手術室において、手術の見学、助手を務める。簡単な手術手技を実践する。
7. レーザー治療室において、光凝固治療を見学、介助する。
8. 指導医とともに、眼科救急患者の診療をおこなう。

4) 評価

1. EPOC2で評価する。
2. 当科独自の評価

眼科 週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	病棟 検査	病棟 検査	病棟 手術	病棟 検査	病棟 検査
午後	病棟 検査	病棟 検査	病棟 手術	病棟 検査	病棟 検査